

北社会ニュースオ97号

政宗の夢から始まった

2013年11月27日
発行者: 鈴木邦夫

朝刊の一面に「宮城」の記事が続く。「楽天11月21日」
 として昨日は「4代目大使被災地・石巻市を訪問」と。
 素晴らしい盛り上げの中で「嗚呼独眼竜政宗成程今に」

(1) 本日開催 第35回 北社会

講師: 濱田直嗣氏 テマ「復興の夢 常盤の魂(ウツク)」

2013年(平成25年)6月6日 木曜日

日本スペイン交流400周年

夏月

日

楽行

民

重なり合う「復興」

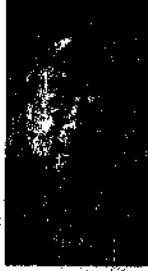
慶長遣欧使節団は、慶長大津波からの復興事業だったのではないか。宮城県石巻市の慶長使節船ミュージアム館長、濱田直嗣さん(73)は東日本大震災後に、そんな考えを深めた。

渡欧は、日本人初の太平洋大西洋横断を試みる大事業だった。「現代で言えば初めて月に行くようなものです」。しかも、大津波からたった2年後のことだ。

濱田さんは大震災3日後にミュージアムを訪れ、「惨憺たる状況」を目の当たりにした。使節船が出帆した月浦地区なども壊滅的な被害を受けていた。

最近、地元の漁師たちに遣欧使節団に復興事業の性格があったのでは、という説を口にする。「ここから船が出て、津波を乗り越えたのかあ」と納得してくれた。「400年前も津波から大事業に挑んだ。その精神的な強さが、使節団には託されていたのじゃない」

ミュージアムにある使節船の復元船は、9月末に改修を終える。市民から「復興のシンボル」とも言われるようになった。「400年前とシンクロして、「再生」を伝える力になると思っています」



慶長使節船ミュージアム館長 濱田直嗣さん

(2) 1月20日(A)開催 第36回 北社会

今年、2013年の総括と新年会を主催し、新入員の北社会運営に北会員の皆さんと意見交換の場を設け、新入員の成長を助ける。

(3) 「北社会」300回記念誌発行について

三九出版の佐子信氏(有11日)が発行に月々2000円を寄附し、11月1日に発行。案件は待たずに下刊。

渾身の書き下ろし!



日本が大航海時代に参加した証。「慶長使節」出帆から400年、元仙台市博物館長の濱田直嗣氏が政宗と常長の描いた夢と現実に迫る。

慶長大航海の原動力から幕府を本格化し始めた伊達政宗は、奥内の復讐・発展に資する海外のことに海外交流を繰り出すために船政を通り、大いに支那常長を擁護して、大連の専方に送り出した。日本国奥州仙台藩が世界に向けて作られた使節の派遣が、あるインパクトを欧州世界に与えたことは疑いない。(本文より複製)



四六判/314p
定価1,050円

河北新報出版センター
〒980-0022
仙台市青葉区五橋1丁目2-28
TEL 022-214-3811
FAX 022-227-7666

■河北Booksのホームページ
<http://www.kahoku-ss.co.jp>

河北新報配達地域にお住まいの方が河北新報販売店または出版センターに本をお申し込みの場合、ご自宅・職場へ配達いたします。

(配達料無料・一部配達できない地域もあります。)